

事業 ID : 2019516992

事業名 : 医療ケアに対応した地域連携ハブ拠点のモデルづくり

団体名 : 一般社団法人 Orange Kids' Care Lab.

事業内容 1 地域拠点オープニングイベント

- 日時 : 2021 年 4 月 4 日 (日) 10:00~16:00
- 場所 : 福井県福井市 Orange Kids' Care Lab.拠点及びオンライン配信
- 参加者 : 72 名 (現地参加)、約 30 名 (オンライン視聴)
- 内容 : (チラシは別紙参照)

【オンライン配信】

10:00~ オープニング (内部紹介)

10:15~ 「日本財団 難病の子どもと家族を支えるプログラムについて」
日本財団 中嶋弓子氏

10:45~ キッズチャレンジムービー

10:50~ 「Orange Kids' Care Lab.の活動について」代表理事 紅谷浩之

11:20~ DOKI DOKI MOVIE PROJECT

11:25 ~ スクールキッズケアラボ トークセッション
代表理事 戸泉めぐみ × 利用者家族

11:50~ クロージング

※上記内容はオンラインで当日配信するとともに、アーカイブとして Youtube (ケアラボチャンネル) でも配信。2022 年 3 月 18 日時点でアーカイブ閲覧回数は 71 回となっている。

【現地イベント】

10:00~ プロカメラマンによる家族写真撮影
約 30 家族の写真撮影を実施

13:00~ 子どもの遊び場ワークショップ Orange Kids' Care Lab.×ジャクエツ
参加者約 20 名 (遊具メーカー・一般参加者・ケアラボスタッフ等)

4 チームに分かれ、ミニ模型を作成し、子どもにとって理想的な遊び場の提案

終日 おもちゃのむし、夢入れポスト、あべこべ博覧会

DOKI DOKI MOVIE PROJECT (<https://www.youtube.com/watch?v=4RxMp55UUxM>)

- アンケート結果 : 別紙参照

■ 当日の様子：



(スクールキッズケアラボ トークセッションの様子)



(子どもの遊び場ワークショップの様子)

事業内容 2 家族・専門職向け医療的ケア児講演会

新型コロナウイルス感染予防の観点から、当初予定していたオンサイト型の勉強会については内容を見直し、事業内容 4「医療的ケア児に対する通学支援コーディネート研修」事業の成果報告会とあわせて 4 回シリーズの講演会を実施した(アンケート結果等は別紙参照)。

<第 1 回>

1 月 15 日 (土) 13:00~15:00 (オンライン開催)

第 1 部「デリソフターの魅力」

講師：ギフモ株式会社 小川恵 氏

第 2 部「在宅医療から小児在宅医療へ かがやきキャンプの取り組み」

講師：医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 理事長 市橋亮一 氏

<第 2 回>

2 月 5 日 (土) 13:00~15:00 (オンライン開催)

第 1 部「補装具で変わる子どもの成長」

講師：株式会社 Arange 松田薫氏

第 2 部 「高齢者福祉から小児在宅医療へ HALE たちばなの取り組み」

講師：認定 NPO 法人ホームホスピス宮崎 理事長 市原美穂氏

<第 3 回>

2 月 19 日 (土) 10:00~12:00 (Orange Kids'Care Lab.拠点とオンラインのハイブリッド開催)

デリソフター実演講習会

「子どもたちの食をもっと美味しく！食べやすく！デリソフターの使い方」

講師：ギフモ株式会社 小川恵 氏

<第 4 回>

3 月 5 日 (土) 13:00~15:00 (オンライン開催)

第 1 部「親子同士がつながるコミュニティに、Burano の取り組み」

講師：一般社団法人 Burano 秋山政明 氏

第 2 部「医療的ケア児の就学支援 これまでのアクションと気づき」

一般社団法人 Orange Kids' Care Lab. 代表理事 紅谷浩之

一般社団法人 Burano 理事 秋山政明 氏

認定 NPO 法人ホームホスピス宮崎 訪問看護ステーションぱりおん 看護師 堤 育子 氏

医療法人かがやき かがやきキャンプ 施設長 藪本 保 氏

事業内容 3 Orange Kids'Care Lab.活動実績報告冊子の作成

新拠点に移ったこともあり、Orange Kids'Care Lab.の活動や拠点を紹介する動画・冊子等を作成した。また、ホームページのリニューアルも行った。

<動画>

【ショートバージョン】

https://www.youtube.com/watch?v=jM2q7SO_IUA (2022年3月18日時点:108回再生)

【ロングバージョン】

<https://www.youtube.com/watch?v=S6kbKBIOQnM> (2022年3月18日時点:139回再生)

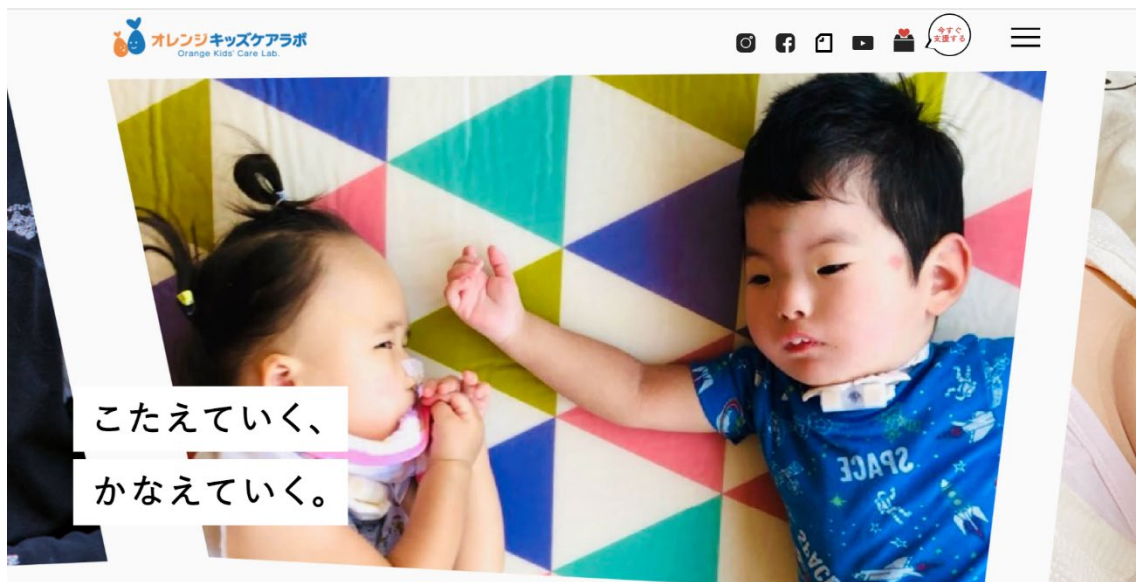
<ガイドブック>

団体の設立背景やミッション、新拠点の紹介を盛り込んだガイドブックを作成(別紙参照)。「事業内容 1 地域拠点オープニングイベント」においても参加者に配布した。そのほか、支援者や見学者へも随時配布している。

<ホームページ>

団体のミッションやメッセージ、事業内容等をよりわかりやすい形で発信できるようホームページのリニューアルを行った。新拠点の施設・設備も紹介している。

2021年12月より公開 (<https://carelab.jp/>)。



事業内容 4 医療的ケア児に対する通学支援コーディネート研修

- 時期：2021年4月～2022年3月
- 対象：難病の子ども支援団体（3団体）
 - ・一般社団法人 Burano（茨城県）
 - ・認定 NPO 法人ホームホスピス宮崎（宮崎県）
 - ・医療法人かがやき かがやきキャンプ（岐阜県）
- 内容：通学支援に関する講義及び取組の紹介、各地の課題の確認、相談支援など
（伴走支援に使用したシートについては別紙参照）
※コロナ禍ということもあり、定期的なオンライン会議で伴走支援を行った



日時	内容
3月25日	4者ミーティング(ケアラボの事例を報告・今後の進め方を共有)
4月6日	医療法人かがやき かがやきキャンプ 個別ミーティング
4月13日	一般社団法人 Burano 個別ミーティング
4月15日	認定 NPO 法人ホームホスピス宮崎 個別ミーティング
6月10日	4者ミーティング(各事業所の進捗状況共有・ディスカッション)
7月6日	認定 NPO 法人ホームホスピス宮崎 個別ミーティング
7月8日	医療法人かがやき かがやきキャンプ 個別ミーティング 一般社団法人 Burano 個別ミーティング
8月3日	医療法人かがやき かがやきキャンプ往訪 (ケアラボスタッフ3名)

9月13日-14日	認定NPO法人ホームホスピス宮崎 スタッフ2名来訪
9月16日	4者ミーティング(各事業所の進捗状況共有・ディスカッション)
10月21日	医療法人かがやき かがやきキャンプ 個別ミーティング
10月25日	一般社団法人Burano 個別ミーティング
11月9日	認定NPO法人ホームホスピス宮崎 個別ミーティング
12月17日	4者ミーティング(各事業所の進捗状況共有・ディスカッション)
2022年1月18日	認定NPO法人ホームホスピス宮崎 個別ミーティング
2022年1月24日	一般社団法人Burano 個別ミーティング
2022年2月3日	医療法人かがやき かがやきキャンプ 個別ミーティング
2022年3月5日	スクールキッズケアラボ成果報告会

伴走支援を受けての気付きについて、3拠点の担当者から以下のような感想をいただいた。

<一般社団法人Burano>

- ・ 保護者の思いを実現するのではなく、みんなで子供にとって何がいいか、どんなことができるかを一緒に考えることが大切。
- ・ 事例を知り、伝えることで、みんな考える際に可能性が広がる。
- ・ 慣れた場所から新しい環境に踏み込むことで想像以上の成長がある。子どもの成長は無限大。
- ・ 画一的な対応にとらわれると個別性を蔑ろにしてしまう。
- ・ 子供にとって、保護者から離れることは初めは不安があり、付き添いが当たり前になっていると頼ることも当たり前。適切な距離をとりながら、子どもが安心して夢中になれる環境を作れると、楽しい未来が待っているように感じている。

<医療法人かがやき かがやきキャンプ>

- ・ 子どもたちの変化は早い。月に1回程度の相談はとてもタイムリー。
- ・ 相談準備。プロセスシートの負担感はなく、とても使いやすかった。
- ・ 行政対応には地域格差あり。予測や前例の提示など貴重なアドバイスをいただけた。
- ・ 支援者も迷いがつきもの。「いいよ」「大丈夫」だけでもありがたかった。
- ・ 家族支援というスタンダード。子どもだけの支援をしているわけではなく、家族や地域を見る視点を常に意識することができた。
- ・ オンラインでも、あたたかい雰囲気でもミーティングに参加させていただき「場の力」も感じた。

<認定NPO法人 ホームホスピス宮崎>

- ・ 保育園や幼稚園、学校に働きかけることで通園通学の足がかりになる。
- ・ 「障害福祉サービス」の利用がゴールではない。地域の保育や学校に出して共生社会実

現の一步となる。

- ・ その子どものファンを作ることが重要。
- ・ 医療的ケア、車いすを利用する子どもが通園、通学することで、健常児の意識は変わるはず。障がいや医療ケアがあっても「当たり前」な社会となるのではないか。